

No.30 行在所

この建物は完成するのに10年を要したが、使用されてた時間はわずか30分であった。明治天皇（1852-1912）にご休息いただくために1882年に建設が始まった。建物は1892年に完成し、明治天皇は1909年に御幸された。宿舎は、政府の建物ではなく天皇が彼らの家にご滞在されるようにお誘いするために半沢家によって建てられた。家全体が一本の木から造られたと言われている。100年以上の時が経っているが、窓には当時のオリジナルのガラスが嵌められている。部屋は絵が描かれた引き戸（ふすま）で仕切られており、床は地位のレベルによって異なる高さに仕上げられている。したがって、最も高い部屋は天皇陛下のために予定されていた。極端に思えるかもしれないが、半沢家の労力は無駄ではなかったのである。明治天皇は移動される前に、しばらくここでご休息なさったのである。